

曾於文藝

うたごよみ

題 字

末吉文化協会会員 瀬戸口 淳民氏

俳句

末吉俳句会

堰の音をひねもす友とし合歓大樹

池田 安起徒

宮映す植田の苗の出揃はず

西村 セツ

青胡桃薄日の空を仰ぐ時

堀之内 美喜

大陽俳句会

面影を偲びつ選ぶ盆提灯

岩重 みどり

声もなく羽音も無くて蛍かな

鍋山 美智子

清浄と八雲琴の音夏祓

福村 よう子

短歌

末吉短歌会

ハルジオンそれとも君はヒメジオン

花の世界も国際化して

宝蔵 弘二

財部短歌会

彦星もおどろいたろう宇宙のゴミ

悲恋は続く七夕の夜

永岡 冴子

大陽短歌会

一寸先は闇と言えども心ぬち

明かるく生きむ法話聞く座に

安藤 フヂ子

運転は今日を限りと友は行く

荷台に造花二ヶ所の墓へ

竹内 娃子

ハグの腕すり抜け見震う汝と棲む

老いて出会いし猫はツンデレ

広川 ミドリ

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

重そうな色したる雲の垂れこみて
たちまち降り始むどしや降りの雨

杉村 リカ

患者が語り合ふうまき饅頭店の
ありかを小声で語る

児玉 次雄

老夫婦ば 屋飯いつも

素麺じやつ

桐野 奈世

爺初盆 貫ろた素麺な

線香臭ざ

胡摩ヶ野 べぶまつ

水素麺な 茹方法に喝

また序の口

山中 ミツどん

なんちゆてん 美味か素麺

湧つ水

高瀬 博多夜舟

素麺料理 田舎かじやご馳走

満腹みたつ

浜田 一好